

## 京都芸術デザイン専門学校 2017 年度入学式祝辞

2017年4月1日土曜日

京都造形芸術大学学長 尾池和夫

今年は桜の開花が遅いようで、入学式に満開にはなっていませんが、もうすぐカ一杯花を開く用意ができています、ちょうど今日の皆さんと同じ状態になっています。これからの2年間で芸術とデザインの力を身につけ、力強く社会に進出していく皆さんの輝かしい顔を前にして、この専門学校へ入学されたことを、学校法人瓜生山学園と京都造形芸術大学を代表して、心からお祝い申し上げます。今年の3月に卒業された方は146名、専攻科の12名で、今日入学された方は259名で、専攻科5名です。うち、留学生22名です。専門学校の学生の数は増えており、それだけ多くの出会いがあって、豊かな経験を皆さんは得られることになると思います。

京都の桜にはいろいろの桜があります。染井吉野はクローンが多く、同じ遺伝子で一斉に咲きますが、実から育った桜はそれぞれの遺伝子にしたがって咲きます。皆さんにもグループ活動の得意な方もいれば、1人で活動する方もいるでしょう。それぞれの個性を大切に活躍してほしいと思います。

入学生のご家族の皆様、おめでとうございます。この専門学校は、産学協同教育という考え方のもとに、本来の役割と意義を質的に補完しつつ、専門性と同時に人間性を育成することを機軸にすえていることで知られています。学校、企業、そしてご家族の皆様と、しっかりと連携を保ちながら、一人ひとりの成長を支援する環境を、学園全体で維持し発展させるよう、私どもは常に努力しています。

皆さんの入学した専門学校の大きな特長は、専門学校のある瓜生山学園のキャンパスに、京都文化日本語学校があり、京都造形芸術大学があって、それらと図書館、ショップ、学食などの共通の施設が身近に利用できるということにあり、多くの外国人学生たちと課外活動などでも交流する機会があり、さまざまな行事に参加する機会があるということです。

かつては、偏差値の高い4年制大学を卒業して大手企業に就職すれば、その後は終身雇用制度に守られて保証されているということもありました。しかし、今日、持続可能な企業経営で求められる人材象は、学歴や大学の知名度ではありません。本校が掲げる産学協同教育が高く評価されるのは、インターンシップを社会を知るための積極的な機会として必修科目に位置づけなど、豊かな経験に基づく教育の取り組みがあるからだと思います。

このような特長を活かすためには、教職員の神経の行き届いた支援が必要ですが、本稿でそれを皆さんは実感することができると思います。また、皆さんには、さらなる挑戦のため、大学への3年次編入学という機会もあります。このように、実践的に活動するための条件が整っている学園であるからこそ、皆さんは、さまざまに近未来に目標を置いて挑戦することができるのです。

せっかく京都の学校にいる2年間に京都の1300年の歴史のある街を愉しみ、歴史にも自然にも触れてほしいと思います。皆さんの目の前のこの舞台には大きな木がありますが、木は炭酸ガスを固定しており、燃やさずに保存することが大切です。京都造形芸術大学の先生にはいろいろの方がいますが、中に宇宙飛行士の土井隆雄さんがいて、夢を語っ

てくれました。その夢は宇宙に木材を持って行って使うことだといいます。西洋の文明では金属やプラスチックを使うことしか考えないのですが、日本人の宇宙飛行士はそのようなことを夢に描きます。皆さんも大きな夢を持って学習と制作に励んでいただきたいと思います。

何はともあれ、心身の健康に留意して、力一杯の学園生活を送っていただくよう期待して、私の歓迎の祝辞といたします。

入学、おめでとうございます。

ありがとうございました。